

隨泉寺寺報

平成 23 年（2011 年）11 月号 第 495 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

後期門信徒講座

講師 住職 自修

講題 『浄土真宗の教え』

■合掌の意味 ～おかげさまのころ～

如来さまへのごあいさつは、合掌にはじまり合掌でおわります。

- 礼拝は祈ることではなく、仏徳への感謝と讃嘆ですから、「お礼をする」ともいいます。力まず自然な気持ちで、しかも怠りなくつづけましょう。
- 念珠（おじゅず）は、仏前に礼拝するときにかける法具です。
- 念珠（おじゅず）は大切な法具ですから、ていねいに取り扱ってください。
- 投げたり、畳の上に直接おいたりしないようにしたいものです。
- 家族のひとりひとりが、かならず念珠をもちましょう。
- 念珠のもちかた
- 合掌のときは両手にかけて、ふさを下にたらし、親ゆびでかるくおさえます。
- 合掌しないときは、左手にもちます。

11月の法座予定

- 11月13日……………掃除 瀬野川団地・桑原
- 11月14日昼席午後1時より……………後期門信徒講座
- 11月15日朝席午前10時より……………役員研修会 おとし
- 11月15日昼席午後1時より……………後期門信徒講座 映画鑑賞
- 11月27日午前9時より……………掃除・準備
- 12月 1日午前9時より……………結婚式準備
- 12月 1日午後6時より……………門信徒会本部役員会
- 12月 2日午後1時より……………結婚式リハーサル
- 12月 3日午前11時より……………結婚式

☆ お仏壇

▼ 仏壇を安置するわけ

- 仏壇とは、迷える私たちをお救いくださる阿弥陀如来さまをご安置するために置くもので、最も尊厳な場所であり、家庭生活の中心となるものです。
- うちには亡くなった人がいないから、仏壇はまだいらないと考える人がいますが、とんでもないまちがいです。仏壇は、死者や 牌のためのものではありません。日々を生きる力のもとである如来さまのお慈悲に、私があう場所なのです。
- 仏前に家族そろっておまいりして、謙虚に如来さまの大悲を仰ぐ家庭こそ、本当に幸せな家庭といえるでしょう。
- 仏壇はそまつにならないで、しかもみんなに親しみやすいところにおきましょう。
- 仏壇をもとめることについて、さまざまなことにとらわれないようにしましょう。新たに仏壇をもとめることは、家庭に心のともしびがともるめでたいことです。そのときには入仏式（入仏法要）をおつとめいたしましょう。

▼ ご本尊と脇掛

- 浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来です。
- この阿弥陀如来を、親鸞聖人は、南無阿弥陀仏（六字名号）とも南無不可思議光如来（九字名号）とも帰命尽十方無碍光如来（十字名号）とも示されました。
- 掛け方は、ご本尊を中央に、向かって右側に親鸞聖人のご影、左側に蓮如上人のご影を掛けます。
- 仏壇には、他宗のお札、お守りなどは置きません。

☆ 役員研修会

11月15日午前10時より役員研修会を開催します。今年は葬儀について考えてみようと思っています。昔は葬儀は講中で執り行われることが多かったのですが、近年は葬儀社さんで執行されることが多数になってきました。葬儀のあり方・意味合いなども考えてみたいと思っています。誘い合わせてお参りください。

☆ 菊花展・作品展中止について

毎年開催していた、菊花展・作品展ですが今年は諸事情により中止とさせていただきます。来年庫裏等が改装されたら大々的に開催したいと思います。

☆御礼

永代経懇志	金	拾萬円	津田義明殿	故	津田マサヨ様	特	永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	上平清三殿	故	上平 数子様	特	永代経志として
永代経懇志	金	拾萬円	中村昭子殿	故	中村 昭義様	特	永代経志として

☆御礼

門信徒会へ	金	一封	上平清三殿	故	上平 数子様	香典返しとして
門信徒会へ	金	一封	津田義明殿	故	津田マサヨ様	香典返しとして

11 月

ほんものにとせものは 見えないところのあり方で決まる

私は、Y 小学校の責任をお預かりした八年間、毎晩、寝る前に学校に出かけて行って、校舎に異常はないか、見回りをつづけました。「学校無人化」ということで宿直が廃止され、警備員もおかれておらず、何よりも火事が心配だったからです。

その見回りの度毎に、竹箒（たけほうき）の部屋を電池で照らしてみることにしていたのですが、よく倒れて仕方のなかった竹箒（たけほうき）が、きちんとなりはじめました。誰が整頓してくれているのかわかりません。整頓してくれる人を見つけようと思って、放課後いつも注意を払っているのですが、どうもわかりません。

整頓が百三十日ほどつづいた翌朝、朝礼台の上に、私は大きな温度計を持って上がって申しました。「今、何度くらいだろうか？」子どもたちの予想は、大体あたっていました。「みんなの予想はだいたいあたっている。今は寒いから、温度計の赤い棒が低いんだね。

でもね、みんなの中に、この赤い棒が、温度計のてっぺんまで届くほど、心のあたたかい子がいるらしいんだ。

ちょうど昨晚で百三十日くらいになるんだが、竹箒（たけほうき）部屋のあのたくさんな竹箒（たけほうき）が、いつもキチンと行儀よく並んでいる。

あのたくさんな竹箒を、一本一本かわいがってくれている心のあたたかい子がみんなの中にいるらしいんだ。誰が竹箒をかわいがってやってくれているのか、手を挙げてみてくれないか？」というのですが、挙手をする子が一人もいません。

「おかしいな、誰かがやっていてくれるのにちがいないが……」と思いながら、「子どもが教室にはいってから調べてみてください」と、担任の先生方にお願ひしました。

すると、四年生の M 君という男の子がやっているんだとわかりました。わたしが、いつかの朝礼のとき、「ほんものにとせものは、見えないところのあり方で決まる。それなのに、にせものに限って、見えるところばかりを気にし、飾り、ますますほんとうのにせものになっていく」というような話をしたらしいのです。

そのとき、四年生の M 君が「よし、誰にも見つからないように竹箒の整頓をしよう」と心に決め、それを実行していたのでした。わたしが手を挙げなさいといったとき、手が挙がりそうになったのだそうですが、挙げてしまうと自分がやっていることが、みんなにわかってしまいます。

それで、とうとう手を挙げなかった、ということもわかりました。



映画鑑賞会 《オカンの嫁入り》

先にお知らせしていた『おとうと』は映画配給センターによると経費がたくさんかかるということでしたので急遽《オカンの嫁入り》という映画に変更しました。これもなかなか 白く考えさせられる映画です。期待しておまいりください。

《作品紹介》



長年、母一人子一人で仲良く暮らしてきた母娘を演じるのは、宮崎あおいと大竹しのぶ。日本映画界のトップを走る女優二人の初共演が話題の本作は、母親の突然の結婚宣言によって揺れ動くさまを、ユーモラスかつ温かく描いた人間ドラマだ。原作は第三回日本ラブストーリー大賞ニフティ / ココログ賞を受賞した人気小説「さくら色 オカンの嫁入り」。母の結婚を素直に喜べず意固地になってしまう娘と、自由奔放であっけらかんとしながらも、愛情深く娘を見つめる母——当たり前の日常にこそ感じる幸せについて、深く考えさせられる。

《ものがたり》

大阪。月子（宮崎あおい）と陽子（大竹しのぶ）は、母ひとり子ひとりで仲良く暮らしてきた親子。ある日の深夜、陽子が酔っ払って若い金髪の男・研二（桐谷健太）を連れて帰ってくる。何の説明もないまま玄関で眠りこける二人。月子は陽子を引きずり、居間のこたつに寝かせ、玄関で倒れている研二には毛布をかけてやる。

翌朝、ケロッとした顔で陽子が言う。「おかあさん、この人と結婚することにしたから」……あまりに突然のことにとまどう月子は、とっさに家を飛び出し、隣の大家・サク（絵沢萌子）のもとへ向かった。月子が生まれる前に、陽子は夫・薫と死に れており、ずっと「薫さんが、最初で最後の人」と言っていた。しかも、研二は 30 歳。態度もヘラヘラしていて、元板前だというが、今は働いていないらしい。納得がいかない、というよりも母の行動が理解できない月子は、サクの家に居座り続ける。「月ちゃんがない家同居はできない」と研二は庭の縁側の下で寝泊りする。そんな中、陽子に対しても、研二に対しても頑なに心を閉ざし続ける月子に、陽子の勤め先、村上医院の村上先生（國村隼）は、これまで誰にも話すことのなかった陽子との秘密を告白、月子を驚愕させる。それを聞いて渋々だが、陽子の結婚を了承することにした月子。ところがある朝、陽子と研二が二人で衣裳合わせに出かける間際、陽子が倒れてしまう。緊急搬送され、診断結



は軽い貧血。ホッとする月子であったが、次の瞬間、医師から受け止めがたい現実を突き付けられる。

月子は、陽子を白無垢の衣裳合わせに連れて行くことを決意。由緒ある神社の静かな衣裳部屋で、白無垢に身を包んだ陽子が三つ指をついて月子の前に座る。涙をこらえ、ゆっくりと絞り出すように、これまで決して話すことのなかった本音を……。